

福岡市教育委員会賞

「一つの命と一つの笑顔」

福岡市立松崎中学校 3年

田中 優月

六百三十四万二千九十六。この数字は、平成二十九年中の救急車出動件数である。そのうちの一件は私を救ってくれた。

体育の授業で持久走をしていたとき、呼吸が苦しくなった。休んでいたが、一向に呼吸は整わず、ただ苦しいだけだった。その様子を見た先生方が救急車を呼んでくださった。救急車は十分もしないうちに学校に来て、それからすぐに病院に行くことができた。だから、私の呼吸は落ち着き、持ち前の笑顔と明るさを取り戻すことができた。

驚くことに、十分もしないうちに救急車が来てくれて、病院に運んでくれるのは、世界でも珍しいようだ。なぜ、日本はすぐに救急車で駆けつけることができるのだろうか。

それは、救急車の出動には、納められた「税金」が投入されているからだ。

私たち中学生にとって一番身近な税金といえば、「消費税」だと思う。私は、買い物をする時に、消費税がなかったらいいのにな、と思うことがしばしばあった。しかし、救急車によって助けられたことをきっかけに、そう思うことはなくなった。来年十月から消費税は十％に引き上げられる。私は、賛成だ。なぜなら、救急車出動件数を十年前と比べると、約百五万件も増えているからだ。出動件数が増えるということは、出動に投入される税金も増える。高齢化が進んでいる日本では、これから先、さらに出動件数が増えるだろう。助けを求めている人のところへ駆けつけ、一つでも多くの命を救うための税金は、絶対に必要だと思う。

救急車だけではない。家事が起こった時には消防車。私たちが毎日使っている教科書。どこかに行くために歩く道路。年金は祖父母を支えている。税金は、私たちの生活、そして未来に役立っていると思う。

「消費税の引き上げなんて、しなくてもいいのではないか。」

「税金を納めて何になるのか。」

「税金を払いたくない。」

そう思っているあなたへ。あなたが納めた税金で助けられる人がいる。もしかしたら明日、あなたが助けられるかもしれない。引き上げられた二％の消費税が集まれば、一体、その税金で、何人の人が助かるだろうか。想像してごらん。今よりもずっと、たくさんの方が助かっているだろう。通りづらいあの道が、広くなっているだろう。税金が使用される方法が増えている可能性もある。そう、あなたはの税金は、どこかで誰かを助け、誰かの笑顔へと変わっているのだ。